

平成27年度  
第2回 三重県河川整備計画  
流域委員会

二級河川 前川

平成28年2月22日  
三重県

# 目次

1. 流域の概要
2. 河道の変遷
3. 主要洪水の概要
4. 現行計画と整備状況
5. 河川の現況
6. 河川環境の概要
7. 今後の予定

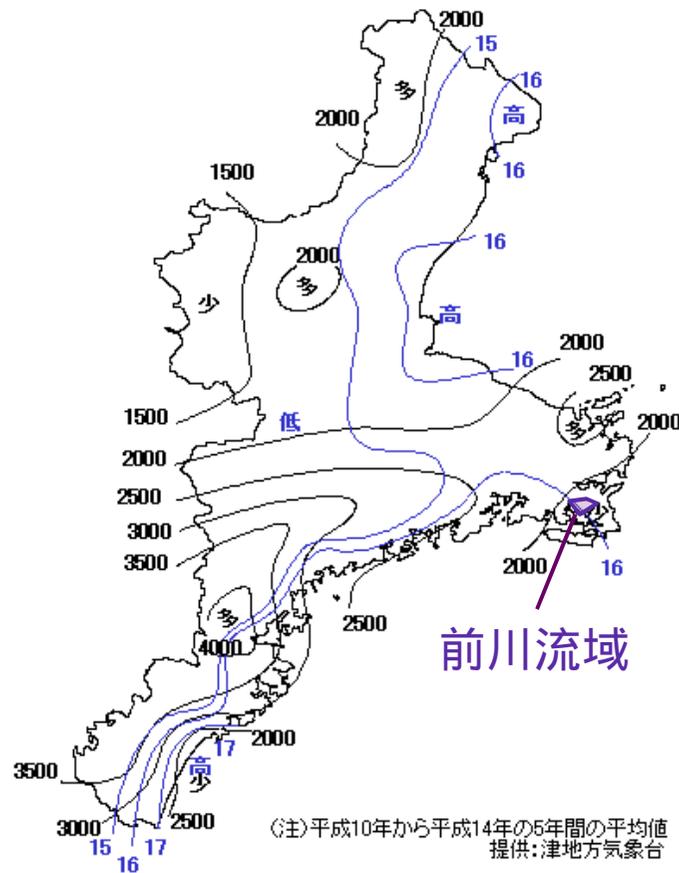
# 1. 流域の概要



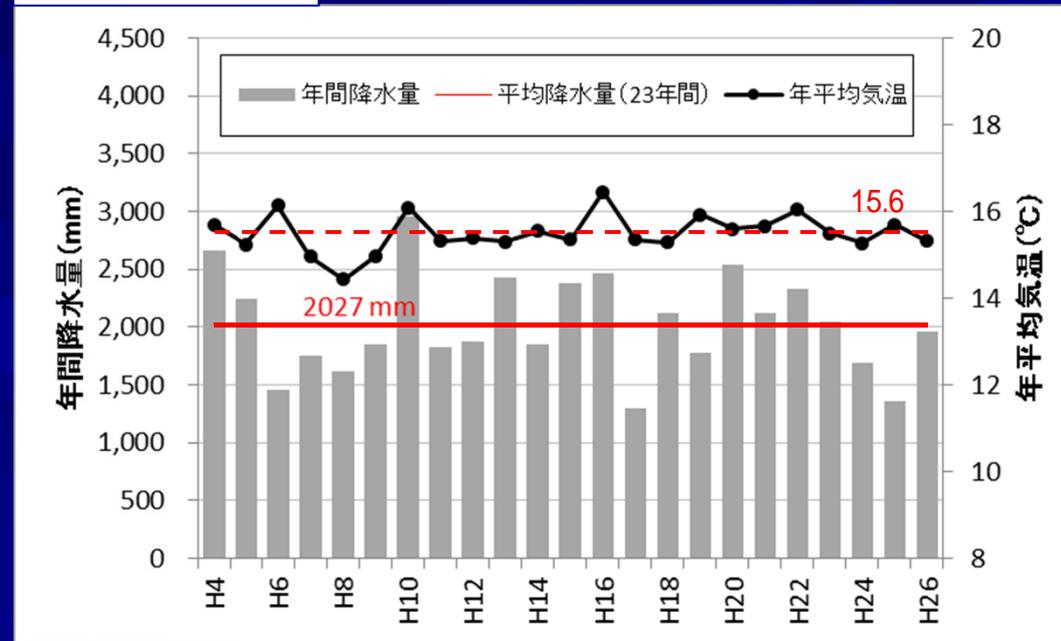
# 気候(H4~H26)

- 前川流域のH4～H26までの年平均気温は15.6℃、平均年間降水量は2,027mmとなっている。
- 四季を通じて温暖で、雨量に関しては全国平均(1718mm)を上回る降水量である。

図10 年平均気温(℃)・降水量(mm)



年降水量・年平均気温



# 歴史・文化

## 【原始・古代】

流域周辺では、古墳・遺跡などが多く存在し、流域を含む一帯は「志摩国」とされていた。

## 【中世】

10世紀中頃～11世紀にかけ、新田開発を盛んに行った。  
九鬼嘉隆が鳥羽に城を築き、志摩を領有してから、村の境界が確立し、近世の鵜方村となる。



## 【近世】

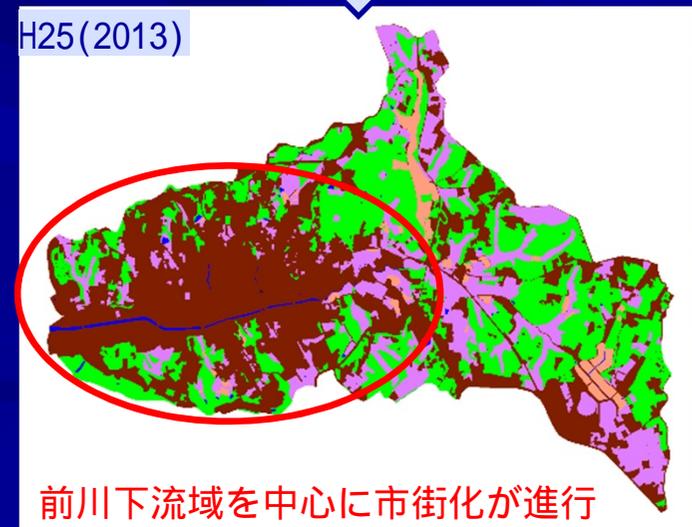
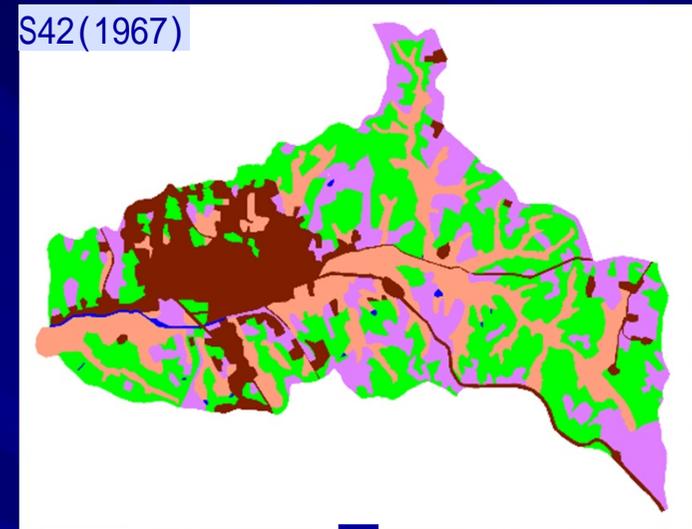
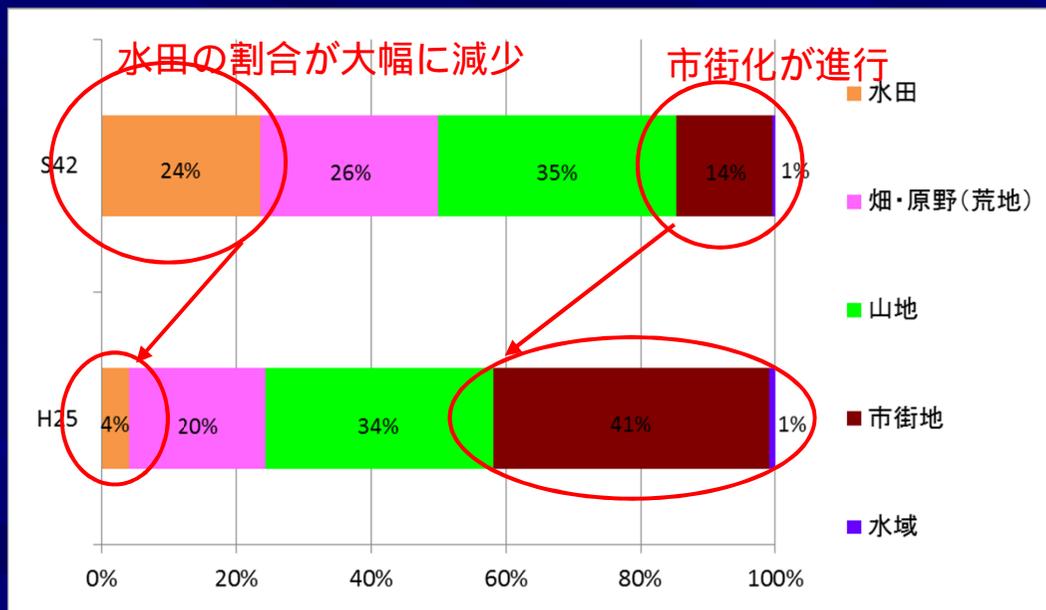
江戸時代には、「お伊勢参り」が流行し、鵜方は通行人や商店でにぎわった。  
また、海岸に沿った湿地にて新田開発が行い、前川は、新田の灌漑用として重要な役割を果たす。大正時代には、鵜方浜の開発を行った。

## 【近現代】

S4には志摩電鉄が開通し、鵜方駅が置かれたことにより商業化が進んだ。  
S28には、鵜方町、神明村、立神村、志島村、甲賀村、国府村、安乗村が合併し、志摩郡阿児町となる。  
H16には、阿児町を含む志摩郡の5町が合併し、現在の志摩市となった。

# 土地利用の変遷

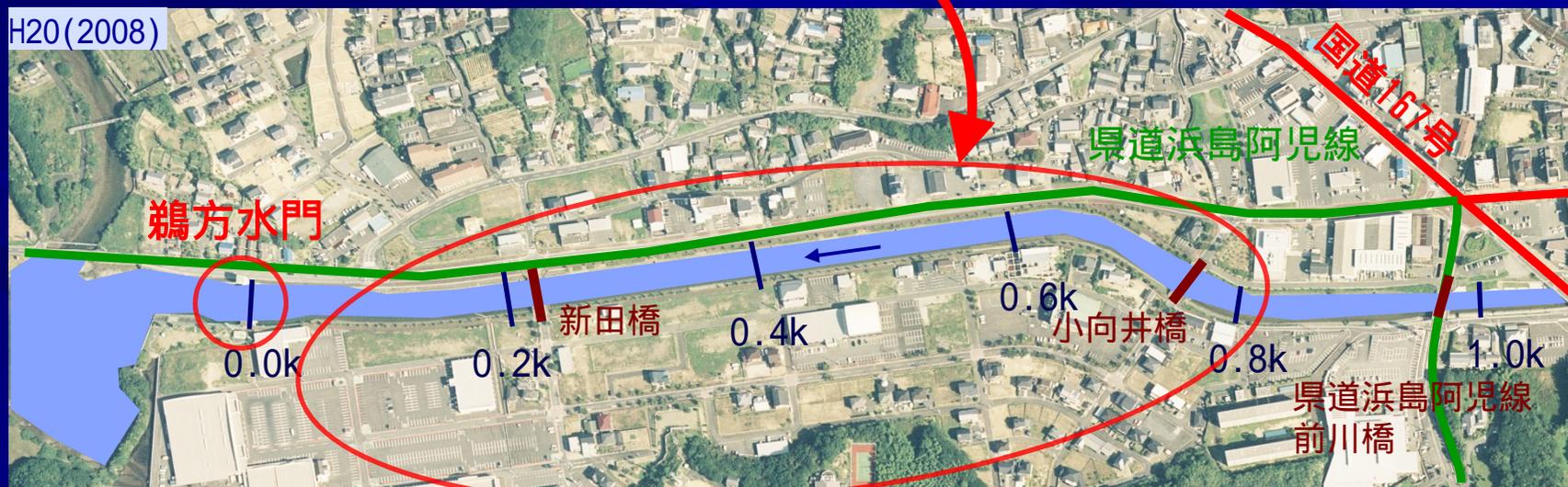
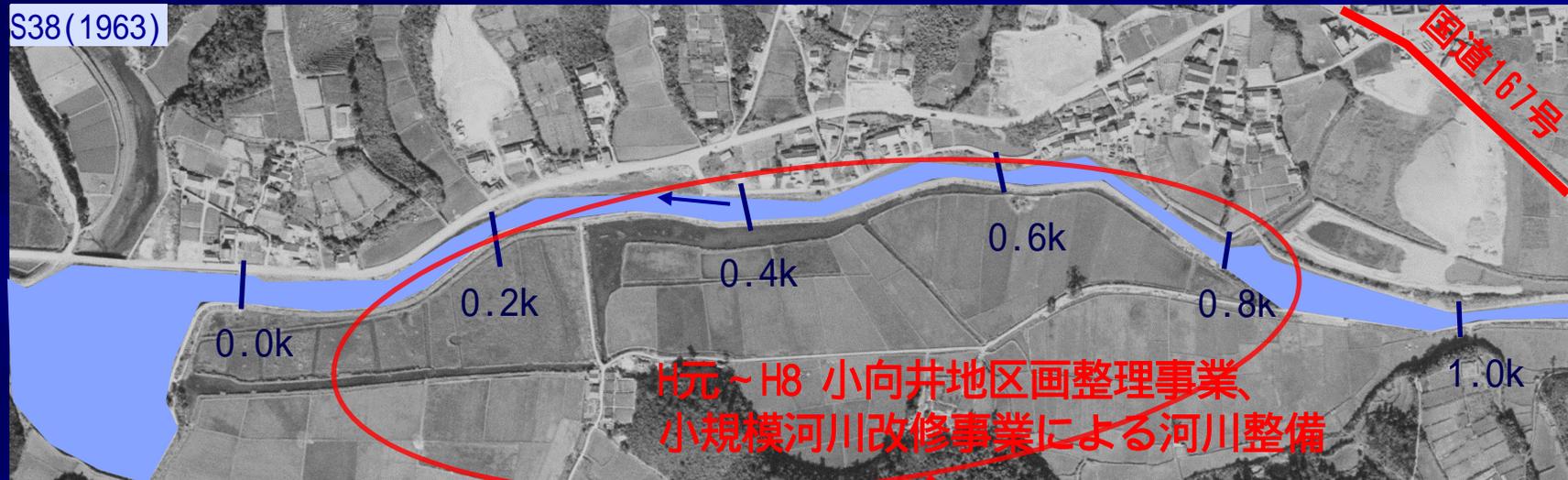
- 水田は24% (S42) から4% (H25) に減少した。
- 市街地面積は14% (S42) から41% (H25) に増加した。



## 2 . 河道の変遷

# 河道の変遷 < 下流域 >

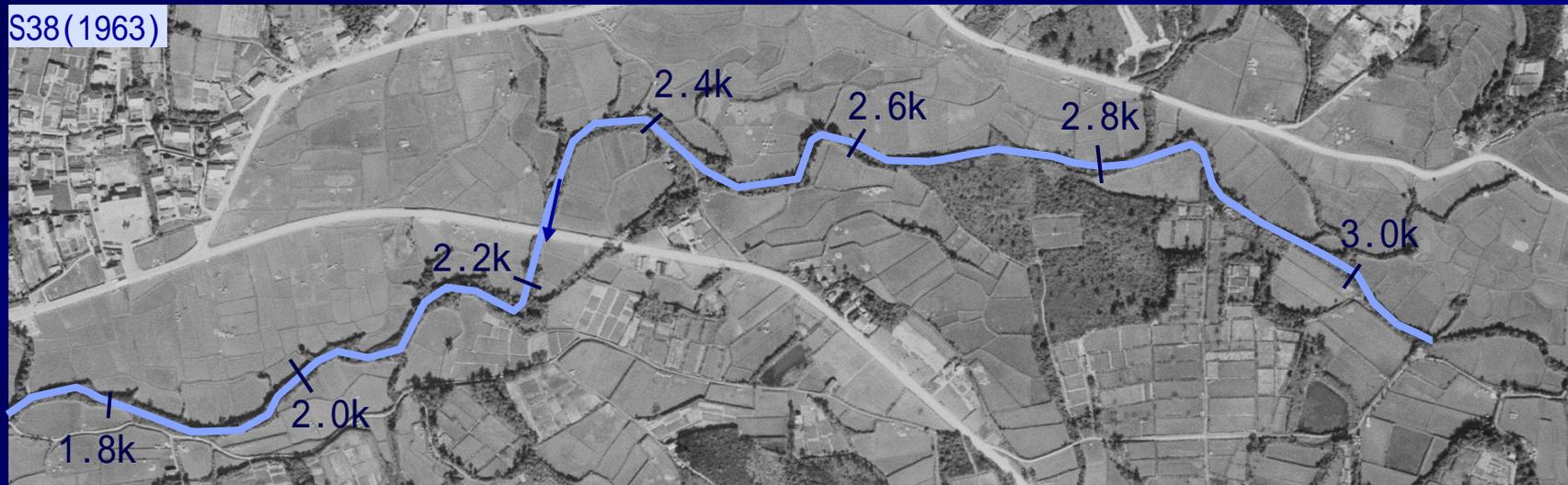
- H元～H8に河川整備に伴い橋の架け替えや鵜方水門の整備を行った。
- 河川整備事業と併せて、小向井土地区画整備事業が行われた。





# 河道変遷 < 上流域 >

□ 上流部は未改修区間であり、河道の形状に大きな変化は見られない。



# 3 . 主要洪水の概要

# 主要洪水の概要

□ H7およびH13にて最大雨量100mm/hr付近を記録

	主要洪水	浸水戸数		最大雨量 mm/hr	雨量 確率
S47.7	台風6,7,9号	床上2	床下5	41.5	1/2
S47.9	台風20号	床上0	床下1	55.0	1/4
S50.8	豪雨	床上1	床下6	34.0	1/2
S51.9	台風17号	床上0	床下1	45.0	1/2
H2.9	台風20号	床上0	床下21	欠測	-
H7.10	豪雨	床上107	床下20	109.0	1/100
H9.7	台風9号	床上2	床下18	54.0	1/4
H13.10	豪雨	床上80	床下16	99.0	1/76
H16.9	豪雨	床上15	床下10	46.0	1/2

# H7の浸水被害

浸水戸数

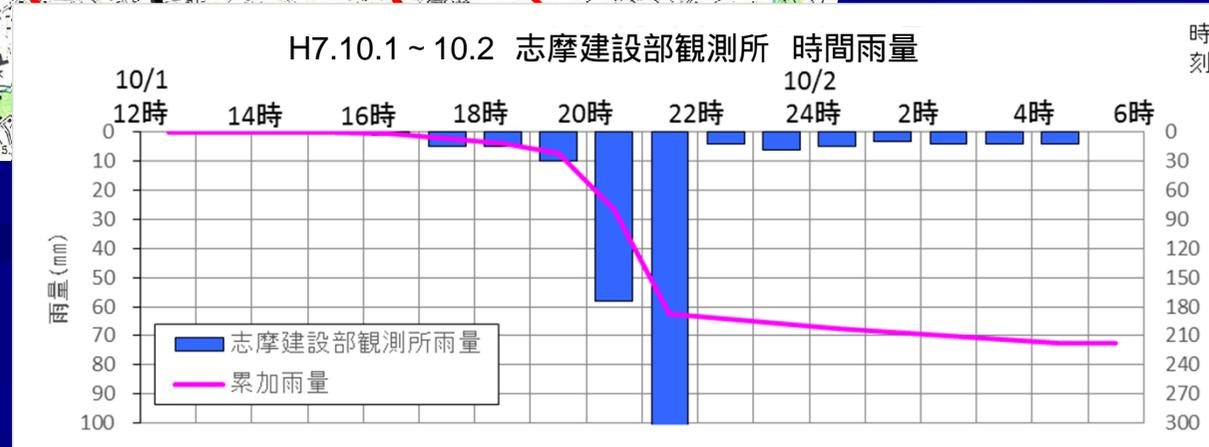
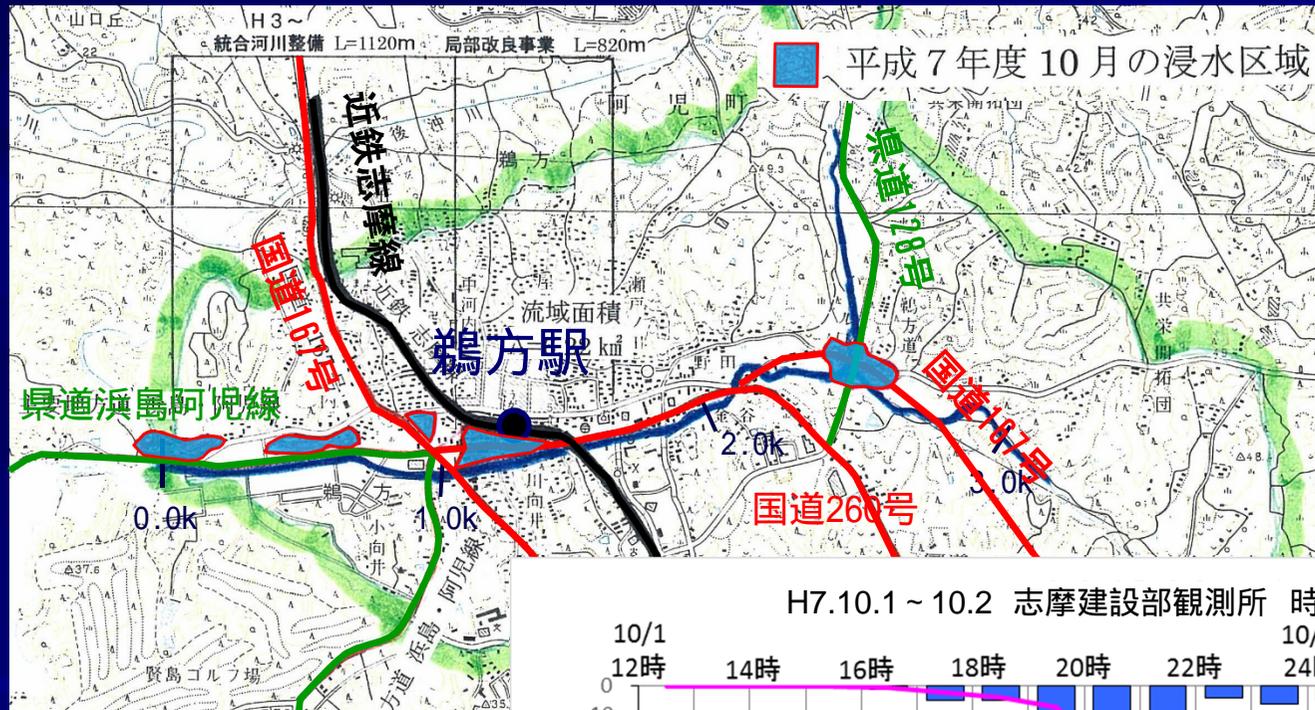
最大雨量

H7.10.1~10.2 豪雨

床上107 床下20

109.0mm/hr

□ H7洪水は最大雨量109mm/hrを記録し、**観測至上最も多い。**



# H13の浸水被害

H13.10.10 豪雨

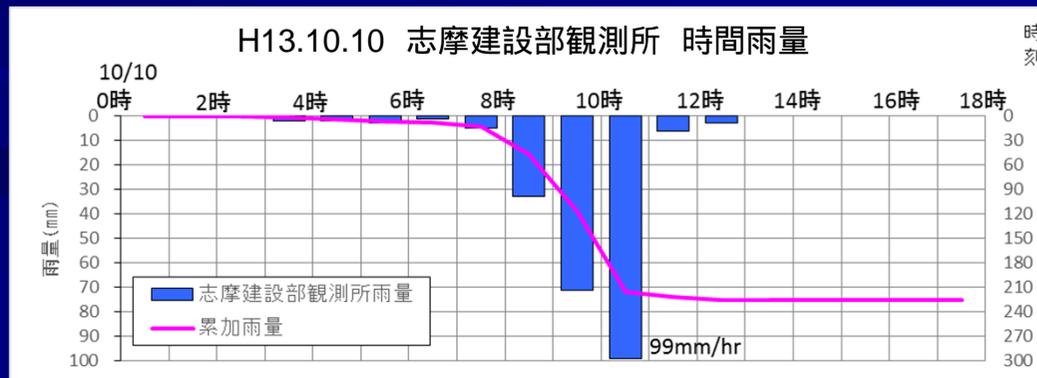
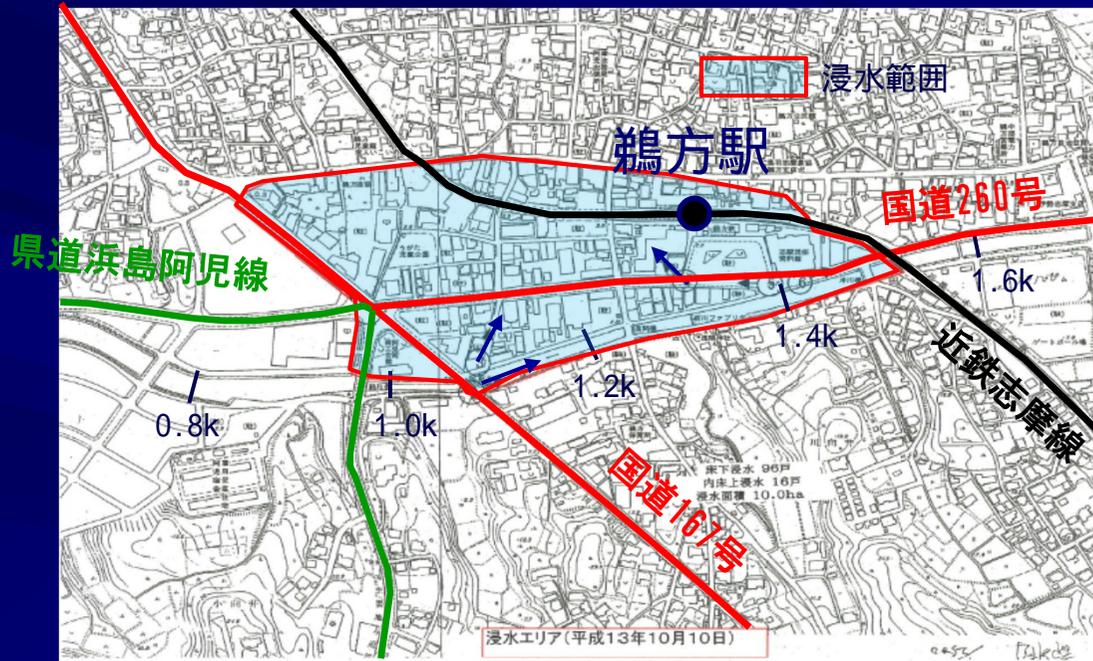
浸水戸数

床上80 床下16

最大雨量

99.0mm/hr

□ H13洪水は最大雨量99.0mm/hrを記録し、観測至上2番目に多い。



## 4 . 現行の整備状況



# 5 . 河川の現況

# 河川の概況(下流域)

□ 国道167号より下流については、護岸整備が完了している。



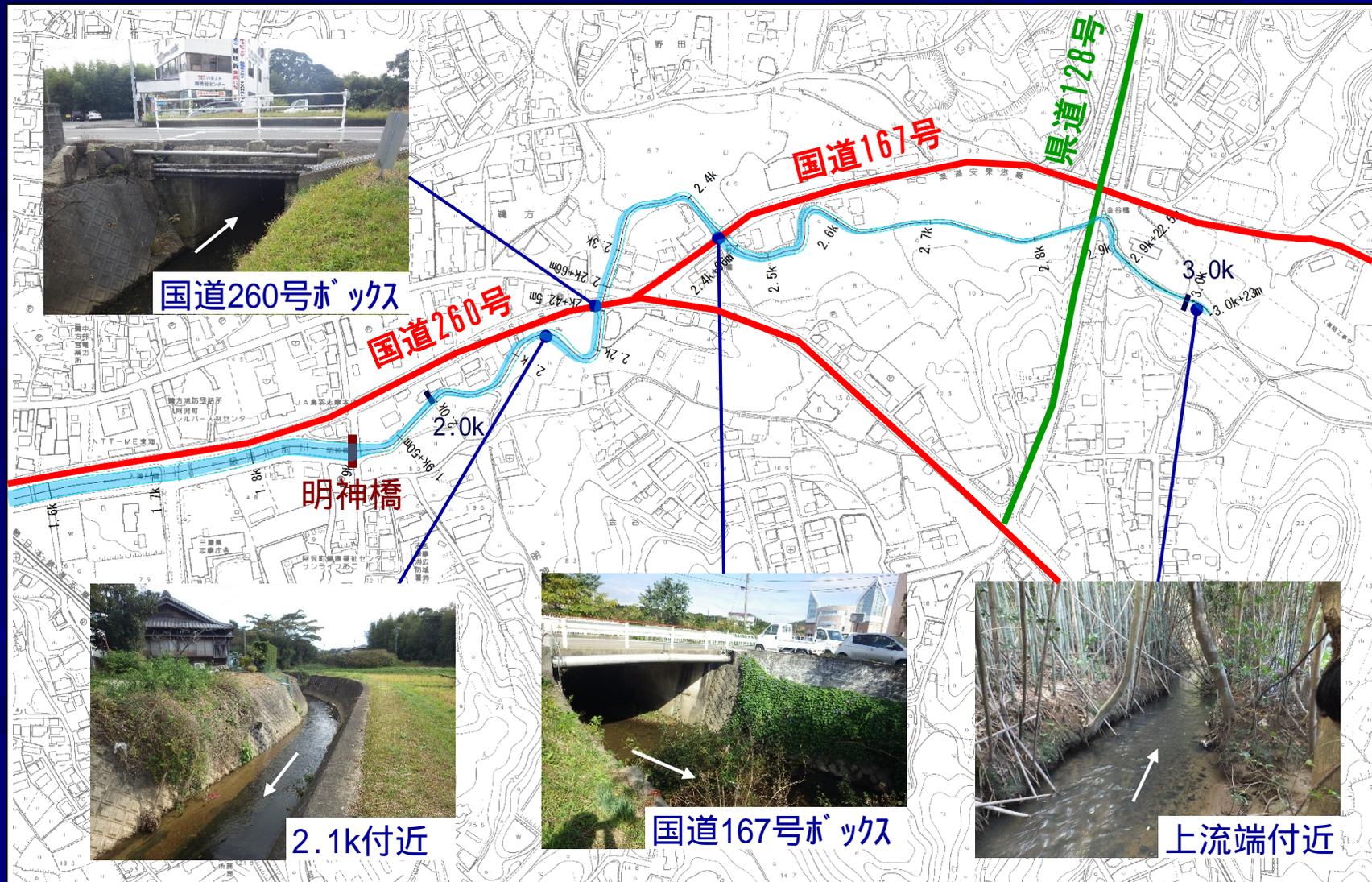
# 河川の概況(中流域)

□ 護岸整備が完了しており、近鉄線上流～明神橋にかけては、護岸の根固めとして寄石等を行っている。



# 河川の概況(上流域)

- 明神橋より上流は未改修区間のため、河道が狭く湾曲している
- 国道260号ボックスは流下能力が不足し、ネック点となっている。



# 河川空間の利用状況

□ 前川の利用実態は下記の通り (H11\_河川環境管理基本計画 住民の意識調査より)

- ✓ 特に利用しない 70.9%
- ✓ ジョギング・散歩 20.0%
- ✓ 休息などのんびり 9.1%



# 水利用の現状

- 前川はかつて周辺農地の灌漑用水として重要な役割を果たしていた。
- 水利権として把握できるのは慣行水利権の3件である。
- 鵜田井堰については、周辺農地が宅地化されたため現在は利水の必要がなくなり撤去されている。



# 6 . 河川の環境

# 河川環境(植生)

□ 河道内で確認された植物種は16科29種、外来種なし

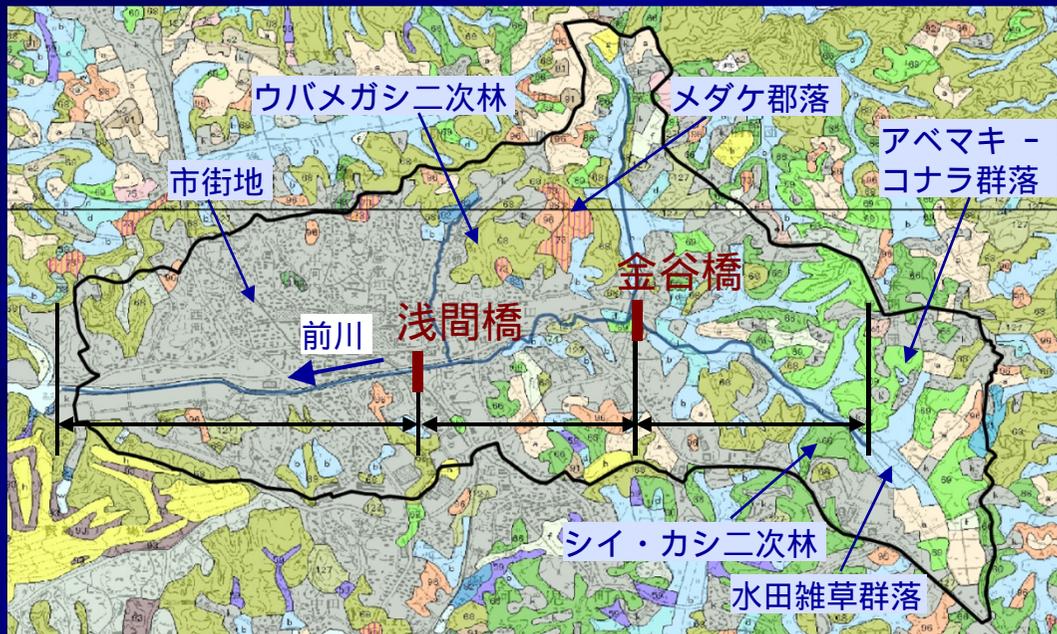
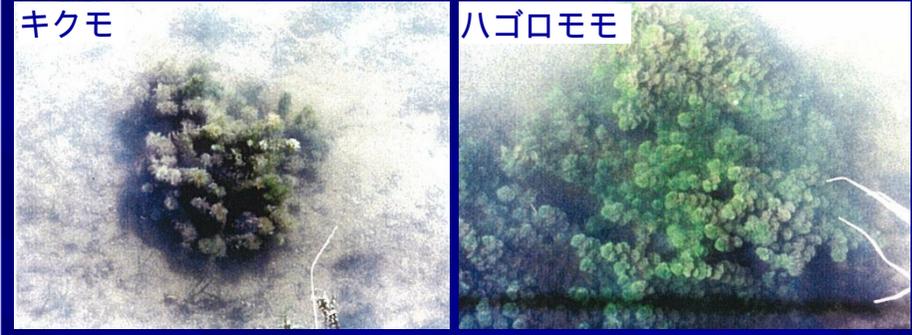
河口～浅間橋まで1.1km区間

ヒメガマが優占して生息しており、その他コナギの生息が確認されている。



浅間橋～金谷橋区間

ヒメガマが優占して生息しており、わずかにハゴロモモ、キクモが確認されている。



金谷橋～上流端

用水路のような形状のため植生はほとんど確認されず、わずかにセキショウが確認されている。



# 河川環境(魚類)

- 小向井橋周辺および野田橋周辺の2地点で調査が行われ、14種の魚類(目視確認のコイを含む)が確認されている。
- レッドデータブック(三重県,2015)で準絶滅危惧(NT)に指定されているメダカ南日本集団が確認されている。
- 外来種として、ブルーギル、ブラックバスが確認されている。



調査地点2(抜粋)

ブラックバス 外来種



ニホンウナギ



調査地点1(抜粋)

メダカ南日本集団



ブルーギル 外来種



ボラ



# 河川環境(哺乳類、鳥類)

## 【哺乳類】

- ✓ 阿児町内では、タヌキ、キツネ、イタチ、モグラ等が全域で見られる。
- ✓ 準絶滅危惧（NT）に指定されているニホンリスが、一部山地で見られる。
- ✓ 現地調査では前川河道付近で哺乳類は確認されなかった。

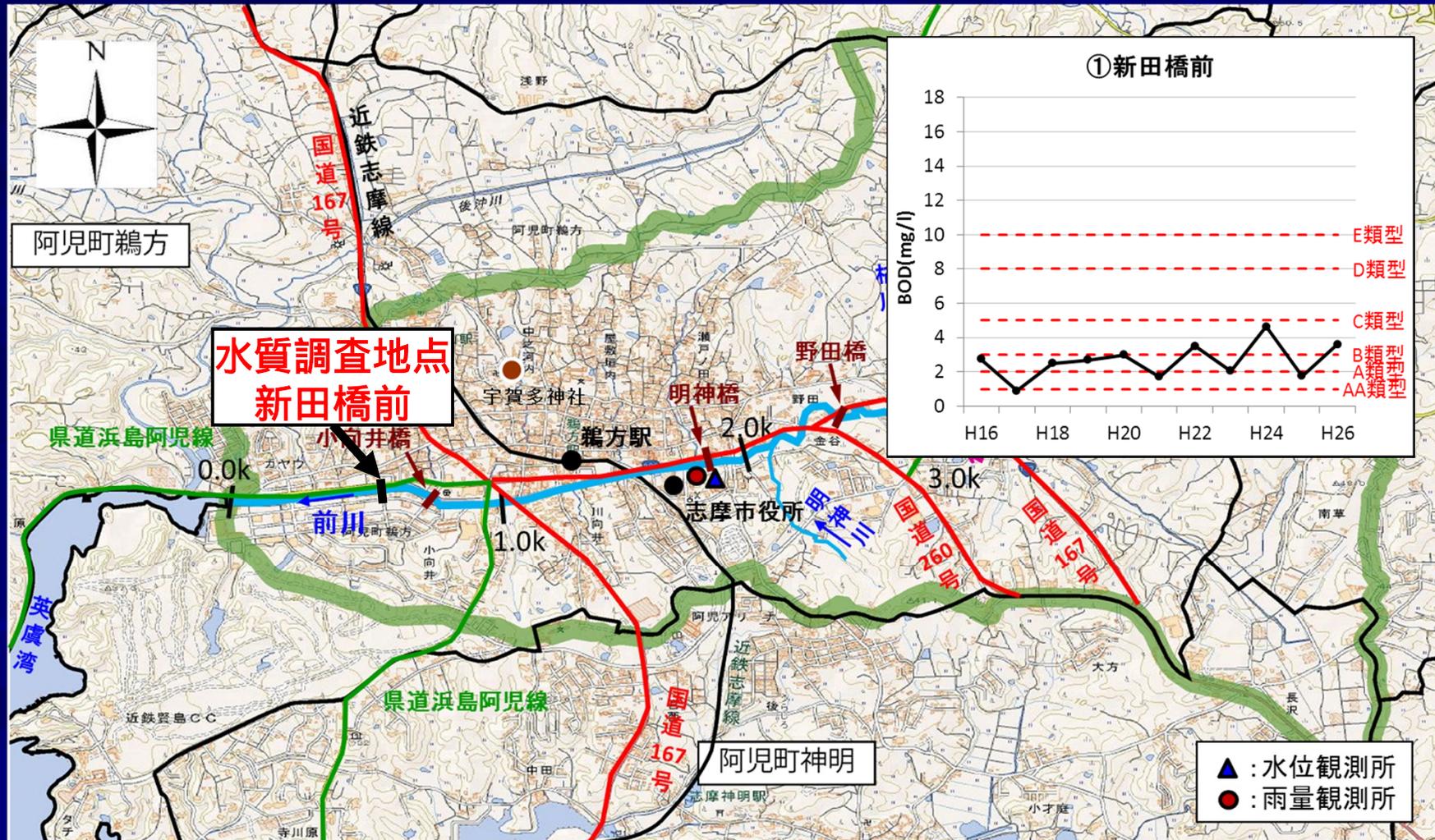
## 【鳥類】

- ✓ 河道内では、アオサギ、ダイサギ、コサギといったサギ類の生息が確認されており、上空では、トビ、スズメ、ヒヨドリ、セグロセキレイが飛翔しているのが確認されている。
- ✓ 現地調査では、下流部護岸でマガモ、志摩市役所付近の河道内でダイサギ、アオサギが確認された。
- ✓ 重要種、外来種なし



# 河川水質の推移

- 前川における水質調査は河口付近の新田橋前で行っており、BOD値は年間変動があるものの、A～C類型相当である。



# 7. 今後の予定

# 今後の進め方

□ 第1回 流域委員会（H28年2月22日）

✓ 流域の概要、現地確認

今回開催

□ 第1回 流域懇談会（H28年4月頃）

✓ 関係住民の意見聴取

□ 第2回 流域委員会（H28年6月頃）

✓ 治水・利水・環境の現状・課題

✓ 河川整備計画の骨子

□ 第2回 流域懇談会（H28年8月頃）

✓ 関係住民の意見聴取

□ 第3回 流域委員会（H28年10月頃）

✓ 河川整備計画原案の提示

□ 関係機関協議・関係市長 意見聴取

□ 策定